

平成 24 年 7 月 28 日

南の風 X

南部ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

いよいよロンドンオリンピックが開幕しました。17日間の熱い戦いが始まりました。開会式前にやっている競技もあるようですが、しばらくは寝不足に気を付けましょう。被災地の皆さんや避難をされている皆さんにとっては、オリンピックどころではないかもしれません。しかし、世界各国の選手の素晴らしい演技や競技、また日本選手の各種目における活躍が、きっと被災者の方や避難されている方、今日から明日へ、そして未来への大きなエネルギーになると信じています。また、そういう力がスポーツにはあるということも、合わせて信じたいと思います。でも、ロンドンで日本のバスケットボール選手の活躍する姿が見られないのは、返す返すも残念でなりません。

さて、ロンドンオリンピック開会式前の26日に行われた、サッカー男子の対スペイン戦のゲームについて感じたことを書いてみます。まず、日本のゲームの入り方がとても素晴らしかったと思いました。モチベーションの高さというか、「何がなんでもやってやる。」というか、『強い意志』を入りの5分間で感じました。スペインの選手がボールを持つとすると、しっかり距離をつめ、絶対簡単にボールをコントロールさせないという意思の疎通が全員の間で図られていたようです。これでスペインは少したじろいでしまいました。それ位ハードで、何か残り5分で1点ビハインドの場面のようなようでした。終わってみれば、この5分間のプレッシャーがスペインとのゲーム全体を支配したような気がしました。強い意志の元に全員がまとまり一丸となってプレッシャーをかけることの重要性を勉強させてもらいました。

バスケットボールでも、ゲームの入り方はとても大切になります。最初からプレスでいくのか、あるいはハーフで様子を見るのか、はたまた、相手のエースを徹底的にマークするのかなど、戦術的にいろいろ考えられます。しかし、共通するのはディフェンス重視にすることだと思います。なぜならオフェンスはあてにならないからです。どんなエースでもシュート確率は50%ないのです。前のゲームで何十点取ろうが、次のゲームでシュートが入る保障はないのです。ならばどうしたらいいのか、特にゲームの入りは気を付けたいものです。

次にスペイン戦のゴールシーンを見て感じたことを書きます。扇原選手のコーナーキックに大津選手が合わせて得点することになるのですが、コーナーキックを蹴る前の吉田選手の動きがキーになったと思うのです。いわゆる吉田選手の動きがダミーとなり、空いたスペースに大津選手が跳びこみゴールしたということです。タイミングがドンピシャでないと決まらなかったと思いますがさすがでした。

バスケットボールにおいても、スペースの取り方、つくり方&使い方はオフェンスの大変重要な要素の一つです。Ⅳ号でも書きましたが、(主にアウトナンバーのスペースの使い方)基本は誰かがカットするあるいはドライブで攻めることです。それに対するディフェンスの動きによってスペースが生まれます。オフェンスのシステムを学ぶ前に、スペーシングのコンセプト(概念)を理解しておくことはターンオーバーを減らす上からも大切になります。バスケットボールはほとんどのプレーが二人の関わりによって完結します。ならば、まず2対2のスペーシングを理解しておくことはチームプレイの基本となると考えます。具体的なことは次号にします。